



今年度、笠田高校図書館で貸出が多かった漫画と漫画以外の書籍のランキングを掲載しています。漫画は、ほとんどリクエストで購入しています。しかし出版冊数が多い場合は、残念ながらご期待にそえないこともあります。また、漫画以外の書籍ではランキングには入っていませんが、アガサクリスティーの本も人気がありました。

今年度貸出が多かった本 ランキング 2022.4~2023.3

(漫画部門)

- 1位 ブルーロック
- 2位 SPY FAMILY
- 3位 呪術廻戦
- 4位 ゴールデンカムイ
- 5位 僕のヒーローアカデミア
- 6位 文豪ストレイドックス
- 7位 約束のネバーランド
- 8位 ご注文はうさぎですか？
- 9位 聲の形
- 10位 ハイキュー！！

【漫画以外部門】

- 1位 マカン・マランシリーズ
- 2位 汝、星のごとく
- 3位 medium
- 4位 とらドラ・スピンオフ
- 5位 60分でわかる！SDGs超入門
- 6位 捨てられる食べものたち
- 7位 りんごかもしれない
- 8位 逃亡者
- 9位 木曜日にはココアを
- 10位 知っていますか？SDGs



図書委員がおすすめする本 Part5

書名:『エイティックス』

著者名:安里アサト 出版社:KADOKAWA

泣ける度★★ 為になる度★★★★★ 恐怖度★★ 癒やされ度★★

あらすじ:アルバがエイティックスを迫害し、帝国の無人兵器(レギオン)にエイティックスが立ち向かう物語

感想:この作品は差別にも関連しているので、差別について考える機会にもなるかなと思いました。各国がレギオンを倒すために技術を発展させていくのがおもしろいなと思いました。(1C 田頭宗粋)



書名:『薬屋のひとりごと』

著者名:日向夏 出版社:主婦の友社

為になる度★★★★★ 恐怖度★★

あらすじ:主人公猫猫が薬草を採りに山に行くと、人さらいにさらわれてしまいました。そして後宮で働かされることになりました。その後、後宮内で起こる事件を猫猫が不本意ながら解決して行く物語です。少しばこメに入ると思います。

感想:私自身が知っている毒などが出てきたり、中国の歴史的文化についても学べる物語です。

(1D 井本朱音)



♪新しい本がいっぱい♪



	書名	著者名	出版社	分類番号
1	私たちと戦後責任(岩波ブックレット 1075)	宇田川幸大	岩波書店	210.75
2	色分け日本地図 統計から読み解く	重永瞬	彩図社	291
3	中村哲物語	松島恵利子	汐文社	333.8271
4	僕らが学校に行く理由	渋谷敦志	ポプラ社	367.6
5	昆虫スタディーズ ハエやゴキブリが世界を変える	水野壮	化学同人	383.8
6	世にも美しい変形菌	高野丈	総合出版	473.3
7	にっぽんのスズメ	中野さとる(写真)	カンゼン	488.99
8	にっぽんのカラス	宮本桂(写真)	カンゼン	488.99
9	長谷川町子 私の人生 漫画、家族、好きなこと	長谷川町子	朝日新聞出版	726.101
10	SPレコード入門 基礎知識から史料活用まで	毛利真人	スタイルノート	760.9
11	私立文章女学院	加藤道子	遊泳舎	816
12	夏井いつきの「今日から一句」	夏井いつき	第三文明社	911.307
13	植物少女	朝比奈秋	朝日新聞出版	913.6
14	任務 松本清張未刊行短篇集	松本清張	中央公論新社	913.6
15	女のイ顔	田辺聖子	中央公論新社	914.6
16	岩波講座 世界歴史13 西アジア・南アジアの帝国 16世紀～18世紀	荒川正晴 他(編)	岩波書店	209
17	リョウ・ナゲン 極北探検家から「難民の父」へ	新垣修	太郎次郎社エディタス	289
18	ぼくたちクルド人	野村昌二	合同出版	334
19	働く母親と階層化	額賀美紗子・藤田結子	KEIKOSHOBOU	367.21
20	ホームレス救急隊—フランス「115番通報」物語	朴・マツ	花伝社	368.2
21	改訂6版 大学の学部・学科が一番よくわかる本	四谷学院進学指導部	アーク出版	376.8
22	化石の復元、承ります。古生物復元師たちのおしごと	木村由莉	ブックマン社	457.8
23	日本全国タイル遊覧	吉田真紀	書肆侃侃房	529.021
24	もしも紫式部が大企業のOLだったなら	井上ミノル	創元社	911.132
25	おどる詩 あそぶ詩 きこえる詩	はせみつこ(編)	富山房インターナショナル	911.568

ただいま、読書中です

『朝日新聞記者の200字文章術』

極小コラム「素粒子」の技術 真田正明(著)



文章を紡ぎ出すのはむずかしいです。文章を書く上で私にとって一番頭を悩ませるのは、規定された字数内におさめることです。つつい長くなり、字数内におさめようと字数を削ると意味が伝わらなくなってしまいます。

この本の作者は、朝日新聞夕刊の一面の右真ん中あたりに掲載されているコラム「素粒子」の執筆を7年半担当していたそうです。毎日182字に5時間を費やし、格闘していたそうです。短い文章は、むずかしい。

作者がいうには、まず書いてみる。文章ができてから推敲を重ねること。ある程度できたら、音読してみる。句読点の打ち方や接続詞の使い方など、文章にリズムが悪いのがわかるそうです。

作家浅田次郎も、書き上げた文章を必ず音読すると書いていたことを思い出しました。リズムが大切だと書いています。続きが楽しみの本です。

